

阿嘉島の蝶 part 7

上林 利寛

AMSL 調理担当

リュウキュウヒメジャノメと

リュウキュウウラナミジャノメ

Butterflies in Akajima Island, Part 7.

T. Kamibayashi

Mycalesis madjicosa and *Ypthima riukiwana*

ジャノメチョウ科の蝶の仲間は多くが地味な茶褐色の翅に和名の示すとおり「蛇の目」の模様があります。阿嘉島にはリュウキュウヒメジャノメ、リュウキュウウラナミジャノメ、ウスイロコノマチョウの3種が生息し、その内の前者2種は固有種です。

リュウキュウヒメジャノメは奄美諸島以南～先島諸島までの琉球列島に生息する固有種で、近年までは日本から東南アジアに広く分布するヒメジャノメと同一種とされていました。交配実験などにより別種であることが判明しました。また、各島ごとに変異が見られ、地理的隔離による分化もあると言われています。本種は阿嘉島では中岳展望台までの山道（本道からの脇道）に多く見られます。山道の両脇に植樹されたケラマツツジの周辺には、幼虫期の食草であるススキも多く自生しています。彼らの縄張り意識は強く、同種がテリトリー内に侵入してくると、すばやく追い払います。また、彼らの何倍もあるアゲハ類にも果敢に立ち向かいます。本種は薄暗い樹林を好む傾向があり、訪花性は弱く、樹液

や腐果に集まって吸汁することが多いようです。

リュウキュウウラナミジャノメは分布が沖縄中北部と慶良間列島のみと生息地がとても狭い範囲に限られた沖縄諸島の固有種です。近縁種には八重山諸島（石垣島・西表島）に生息するマサキウラナミジャノメとヤエヤマウラナミジャノメがいます。リュウキュウウラナミジャノメとこの八重山諸島の固有種の2種は、琉球列島が先島諸島と沖縄諸島とに分かれた時から種分化が始まったと考えられています。本種は阿嘉島では暗く雑木の生い茂った阿護ノ浜までの林道に多く見られます。飛翔力は弱く、地表を這うような飛び方をしますが、翅の裏の波模様がちらついて見え、急に見失うことがあります。それはフラッシュ効果と呼ばれるもので、捕食者から逃げる手段の一つだと考えられています。本種も訪花性は弱く、樹液や腐果を吸汁したり、動物の死体を吸汁することもあります。普段あまり気にとめない地味な蝶にも琉球列島特有の生物史的な背景があるようです。

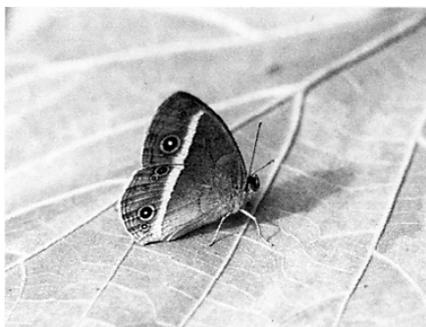


写真1. リュウキュウヒメジャノメ
(中岳展望台にて)



写真2. リュウキュウウラナミジャノメの
交尾: 一般に成虫の出現期は5
月から11月にかけて。阿嘉島で
は3月中旬頃から観察できる年
もある(阿護ノ浜の林道にて)。



写真3. 死んだミズを吸汁するリュウ
キュウウラナミジャノメ(阿護ノ浜
の林道にて)。